

2021年度

ムラタ健保の保健事業

スマホで小児科医に無料相談 小児科オンライン

平日
18~22時

使いたいときに慌てないために・・・まずは会員登録を！

QRコードをお読み取りいただくか下記のURLにアクセスしてください

<https://syounika.jp/lp/kenpo/murata>

項目	内容	対象者		
		被保険者	被扶養者	
生活習慣病対策事業	定期健診	40歳以上の方に法で定められた「特定健診」とがん検診を会社の健診にあわせて実施します。ムラタ健保では35歳から実施し、メタボリックシンドロームにならない健康な身体づくりを支援しています。	○ 35~74歳	-
	家族健診	「特定健診」とがん検診・婦人科検診を一度に受診できる被扶養者・任意継続者向けの健診です。対象者には案内冊子をご自宅へ送付します。	-	○ 30~74歳
	特定保健指導	メタボリックシンドロームの改善を目指した生活習慣改善プログラムを提供します。「特定健診」の結果に基づき、対象者に直接ご案内します。35歳からを対象とし、脱メタボを早期から支援します。	○ 35~74歳	○ 40~74歳
	重症化予防	生活習慣病の重症化を防ぐため、適切な受診や生活習慣改善ができるよう保健師等の専門家が支援します。対象者には直接ご案内します。	○	-
疾病予防事業	人間ドック補助	人間ドックの受診費用を、一定額まで補助します。	○ 30~74歳	○ 30~74歳
	婦人科検診補助	乳がんや子宮頸がんなど女性特有の疾患の検診費用を一定額まで補助します。	○	-
	歯科健診	全国の委託提携機関・歯科医院で虫歯や歯周病、歯垢・歯石のチェックなど基本健診を受けることができます。	○ 18~74歳	○ 18~74歳
	郵送検診	自宅で受けられる郵送式の検査です。胃や大腸や前立腺をはじめとしたがん検診、歯周病のリスク検診など1項目500円の自己負担で受診できます。	○ 項目による対象年齢設定あり	○ 項目による対象年齢設定あり
	インフルエンザ予防接種補助	インフルエンザのリスクを軽減するため、予防接種費用を一部補助します。12歳以下のお子さまは1年度内に2回まで補助します。	○	○
	60歳以上の家族を対象とした健康サポート事業	健康状況に変化の出やすい年代を対象に、健康相談員がご家庭を訪問したり、電話で健康不安の軽減や健康増進のためのアドバイスや支援を行う事業です。対象者には直接ご案内します。	-	○ 60~74歳
	家庭常備薬斡旋	病気の予防やケガの処置に役立つ家庭用医薬品を、年2回斡旋します。	○	○
	禁煙サポート「禁煙応援団」	家族や同僚の応援を受けて、禁煙にチャレンジ!3ヶ月間の禁煙チャレンジ期間終了後、禁煙外来等の禁煙チャレンジに要した費用の一部を補助します。	○	○
	小児科オンライン	スマートフォンからチャットや電話で気軽に小児科医に無料相談ができます。 上部参照	○	○
	運動推進事業	kencom (ケンコム)	Webやアプリで利用登録するだけで、自分に合ったオススメの健康情報が得られたり、健康づくりの取組みに応じたポイントがゲットでき、デジタルポイントや商品と交換できます。	○
スポーツクラブ利用補助		イーウェルが提供する村田製作所社員限定サービスの「WELBOX」にてスポーツクラブの利用が可能です。	○	○
広報啓発事業	広報誌「Fine」	健康特集・健保からのお役立ち情報などを掲載した「Fine」をご自宅へお届けします。	○	○
	健保ホームページ	健康保険のしくみ、給付や各種申請方法、保健事業などについて解説しています。健保組合からのお知らせなど、常に最新の情報を提供します。	○	○
	ジェネリック医薬品利用促進通知	ジェネリック医薬品に切り替えた場合に自己負担額が軽減される方を対象に、どのくらい軽減されるかを算出したリストを送付します。	○	○

※対象年齢は年度末(2022年3月31日現在)の年齢です

新 胃がん検診がスタートしています

今年度は、定期健康診断を受ける35歳以上の方が対象です

※被扶養者(ご家族)は、家族健診を受ける30歳以上の方が対象です。

定期健康診断において、従来実施していた胃部X線(バリウム)検査は、今年度よりABC検診に移行しています。健診結果を確認し、ご自身の胃がんリスクをふまえた健康管理を行ってください。ムラタの新胃がん検診について、これまでに配付している小冊子などで詳しく説明しています。また、胃カメラ受診補助制度についても、ムラタ健保のホームページなどで説明しています。



ABC検診	検査項目		結果値	単位	基準値
	ピロリ菌抗体検査	ピロリ菌抗体	(-)		
ピロリ菌抗体値		4.1	U/ml		
ペプシノゲン検査	ペプシノゲンI	85.6	ng/ml	70.1~	
	ペプシノゲンII	14.2	ng/ml		
	ペプシノゲンI/II比	6.0		3.1~	
	ペプシノゲン判定	(-)		(-)	
	ABC分類	1:A群			

ピロリ菌の感染はありません
(+)の場合はピロリ菌に感染している可能性があります。
消化器内科等を受診し感染が確定された場合は、除菌療法が推奨されます。

胃粘膜の萎縮(老化)を調べてA群~D群に分類

リスク	群	特徴	ピロリ菌感染	胃の萎縮	対応
低	A群	ピロリ菌もなく、健康的な胃粘膜	なし	なし	胃がんになる可能性は低いですがゼロではありません 自覚症状がある場合は医療機関を受診しましょう
リスク	B群	ピロリ菌により、少し弱った胃粘膜	あり	軽度	胃がんの発症リスクがあります 消化器内科等で内視鏡検査を受けて、 ピロリ菌感染確定時は除菌治療を行いましょ
	C群	胃粘膜の炎症が続き、弱った胃粘膜	あり	中等度	
高	D群	ピロリ菌もいなくなった、かなり弱った胃粘膜	なし	高度	胃がんのリスクが非常に高いです 毎年定期的に内視鏡検査を受けましょう

下記に該当する方は、リスク判定が困難な場合があります
定期的に医療機関を受診しましょう

- 過去にピロリ菌を除菌した方
- 慢性腎不全の方
- 胃を切除された方
- 胃の病気の治療中の方
- 胃酸を抑える薬を服用中の方